

東京大学東洋文化研究所
附属東洋学研究情報センター

平成26年度事業報告

平成27年6月

目 次

1. センター概要	2
2. 教員	3
3. 委員会等	3
4. プロジェクト事業	4
1) 公募プロジェクト	4
2) センター機関推進プロジェクト	18
○重点プロジェクト	19
○一般プロジェクト	24
5. 研究成果の公開・発信事業	25
6. 研修事業	28
7. その他	30

東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター

1. センター概要

東洋学研究情報センター（Research and Information Center for Asian Studies、以下、センターと略）は、東洋学文献センター（昭和41年設置）に代わる東洋文化研究所の附属施設として、平成11年4月1日に新設された。センターは、研究所が行うアジアに関する先端的な研究と連動し、またその成果を踏まえながら、アジア全域を対象とする「アジア資料学」の確立を目指している。具体的には、「アジア地域の人文・社会科学（文献・造形資料、現代的諸課題）に関する資料・情報の収集・研究とその情報化」に関する事業を担っている。

センターの研究分野は、造形資料学分野、比較文献資料学分野及び平成21年度から増設されたアジア社会・情報分野の3つに分かれる。

造形資料学分野は、美術作品・建築・考古資料・民族学資料・地図・挿絵・映像・写真等の非文字資料を、比較文献資料学分野は、アジア諸言語で書かれた書籍、新聞雑誌、文書、碑文等の文字資料を、アジア社会・情報分野は、アジア・バロメーターなどのデジタル化された社会調査資料を主な研究対象とする。センターの教員スタッフは、造形資料学分野担当の教授1、比較文献資料学分野担当の教授3、アジア社会・情報分野担当の教授2からなる。

平成15年度から、新たに外部資金を戦略的に投入することによって事業の拡大・充実を行い、さらに、文部科学省科研費などにより実施された一般プロジェクトとも連動して、包括的な内容を持つアジア資料学の構築を目指した事業を実施するようになった。現在では、これらは機関推進プロジェクトとして継続的に実施されている。

平成21年6月には、文部科学大臣によって共同利用・共同研究拠点に認定され、翌平成22年度から全国の関連研究者コミュニティに対し、より開かれたセンターとしての活動を開始した。共同研究は上記の3分野にまたがって公募され、学内外の委員からなる運営委員会での審議によって選抜・評価されている。

文献資料とデータベースはこれまでも広く国内外の研究者・学生に公開し利用されてきたが、それ以外の研究資源も含めた使いやすい公開方法の整備、より高次元なアジア研究データベース開発を通じ、研究者コミュニティや社会の要望に応え、新しい共同研究に発展しうるような共同利用の実現を目指している。

平成21～24年度には、日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業に「アジア比較社会研究のフロンティア」が採択され、アジア社会・情報分野を中心に3年計画での最終年度が終了し、大きな成果を得た。

2. 教員

センター長	教授	高見澤 磨
副センター長	教授	長澤 榮治
	教授	平勢 隆郎
	教授	板倉 聖哲
	教授	大木 康
	教授	名和 克郎
	教授	園田 茂人
	教授	松田 康博

3. 委員会等

1) センター運営委員会

開催日 平成26年6月 6日(木) 16:00～

平成27年2月13日(木) 15:00～

運営委員会委員

高見澤 磨	東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター長
長澤 榮治	東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター 副センター長 比較文献資料学分野・教授
菅 豊	東京大学東洋文化研究所汎アジア部門・教授
大西 克也	東京大学大学院人文社会系研究科・教授
岩月 純一	東京大学大学院総合文化研究科・教授
加藤 博	一橋大学大学院経済学研究科・特任教授
小長谷 有紀	人間文化研究機構・国立民族学博物館民族社会研究部・教授
岩井 茂樹	京都大学人文科学研究所人文学研究部・教授
宮治 昭	名古屋大学・名誉教授
宮 篤博 史	成均館大学校東アジア学術院 (韓国・ソウル)・教授
柳澤 悠	東京大学・名誉教授

2) センター委員会

開催日

平成26年	4月22日(火)	14:30～
平成26年	5月27日(火)	14:30～
平成26年	6月17日(火)	14:30～
平成26年10月	7日(火)	14:30～
平成26年11月	18日(火)	14:30～
平成26年12月	9日(火)	14:30～
平成27年	1月13日(火)	14:30～
平成27年	2月3日(火)	14:30～
平成27年	3月10日(火)	14:30～

センター委員会委員

長 澤 榮 治	比較文献資料学分野、委員長
平 勢 隆 郎	造形資料学分野
板 倉 聖 哲	造形資料学分野
大 木 康	比較文献資料学分野
高 見 澤 磨	比較文献資料学分野
名 和 克 郎	比較文献資料学分野
園 田 茂 人	アジア社会・情報分野
松 田 康 博	アジア社会・情報分野

4. プロジェクト事業

1) 公募プロジェクト

センターに蓄積されてきたアジアのデータベースを含む諸資料、人的ネットワーク、施設を活用し、アジア各地に関する多様な情報を、時間軸、空間軸に沿って比較・俯瞰し、アジアと世界の新しい理解方法を提案するための共同研究を募集し、実施している。中間評価の評価コメントを踏まえ、平成26年度は課題設定型の共同研究を中心に応募をした。平成26年度は新規課題4件、継続課題1件を採択した。平成26年度の実績報告書は以下の通り。

課題1：中世寺院における宋代仏教文化受容の統合的研究－泉涌寺流を中心とした宋代仏教の相対化への試み

研究者

宗教法人御寺泉涌寺宝物館「心照殿」・学芸員 西谷 功（申請者）
花園大学・教授 中尾 良信
大阪大学・教授 藤岡 穰
京都大学・准教授 稲本 泰生
奈良国立博物館・保存修理指導室長 谷口 耕生
東京国立博物館・研究員 塚本 暦充
鎌倉国宝館・学芸員 高橋 真作
法政大学・専任講師 大塚 紀弘
東京大学東洋文化研究所東アジア第二研究部門・教授 板倉 聖哲

研究期間：平成26年4月1日～平成28年3月31日（2年間）

◆課題の概要

本研究は第一に「中国絵画所在情報データベース」を援用して調査を行い、その成果により「中国絵画デジタル・アーカイヴ・プロジェクト」の推進を図ることを課題とする。第二に、中世寺院社会において入宋僧が請来した宋代仏教の思想や儀礼文化、美術作例の受容過程を、従来の宗派史観や顕密仏教論から開放し、東アジア仏教的視角から再解釈を行い、関連資料を蒐集することで、鎌倉仏教の新たな宗教史的・美術史的・文化史的意義の統合的構築を試みる。

その基点寺院を入宋僧・俊苧開山の泉涌寺（京都市）とする。同寺は近年発見の『南山北義見聞私記』（同寺蔵）により、日本の禅宗寺院と同様に、南宋仏教の寺院制度、出家生活の作法・諸儀礼などを興行し、また儀礼空間において釈迦三尊・羅漢・祖師などの仏像仏画の奉安例が明らかとなっている。本発見は（1）「宋代仏教＝禅仏教」イメージからの脱却とその相対化、（2）日宋間における同主題の美術作例流行の要因を「儀礼興行」という新視角による再解釈を可能とし、（3）泉涌寺僧や同寺参学の禅僧・律僧・浄土僧・顕密僧に対する擬似的宋代仏教の受容とその展開、を想定可能にするもので、従来の中世寺院社会における宋代仏教文化の受容や影響を抜本的に見直す最新の研究視座に位置付けられる。

そこで、これらの視座を基点に、泉涌寺や関連寺院、各博物館所蔵の聖教・美術作例の調査を行い資料蒐集することで、宋元・鎌倉仏教文化の再解釈を行い、従来の史観から解放された仏教学・仏教史・美術史の立場から中世寺院社会における宋代仏教文化受容の総合的研究を行うことを課題とする。

◆平成26年度の研究実施状況

（1）初年度は、協同研究者や関連領域の研究者・大学院生を招聘し、本研究の趣旨を述べた上で、泉涌寺所蔵の仏画・絵画、典籍（版本）の学際的調査を実施した。

（2）宋代仏画の作例・所蔵先を把握するために、東洋文化研究所所蔵の調査カードを調査し、その成果を踏まえ、寺院・博物館・個人・図書館所蔵の釈迦三尊像、涅槃図、羅漢図、肖像画などの仏

画、宋音經典や年中行事資料、法会次第（儀礼）書などの調査、資料収集を行った。

(3) (1) (2) の調査成果を踏まえ、泉涌寺蔵の儀礼書『南山北義見聞私記』の研究輪読会を開催し、検討を加えた。

(4) 本研究の中間報告として、3月に東京大学でシンポジウムを開催した。

◆平成26年度の研究成果の概要

本年度の成果として、三十数点におよぶ泉涌寺所蔵、二十数点の寺院・博物館・個人所蔵の仏画、典籍（版本を含む）の調査を行い、美術史・歴史学・仏教学・儀礼史などの多角的な視点で検討を加えることで、鎌倉時代における宋代仏教文化受容の具体的な事例を抽出することに成功し、さらには図様の再解釈、儀礼空間での機能（懸用・読誦）を再考できた。こうした成果の一端は、泉涌寺宝物館での展示や、谷口「道宣律師像・元照律師像・俊苜律師像」、西谷「文物からみた日中僧俗ネットワーク」（ともに『東アジアのなかの日本美術』、小学館）、同「東山泉涌寺図」（『京を描く』展、作品解説）として公にし、板倉「梁楷『出山釈迦図』をめぐる諸問題」（浙江大学シンポジウム「宋画国際学術会議」）、高橋「鎌倉・光明寺蔵『十八羅漢及び南山大師像』について」、西谷「中世寺院における宋代仏教受容の諸相」、同「泉涌寺旧蔵『涅槃変相図』とその儀礼の復元的考察」（ともに同研究会シンポジウム）と題して口頭報告を行った。

課題2：日本所在漢籍に見える東アジア典籍流伝の歴史的研究－宮内庁書陵部蔵漢籍の伝来調査を中心として－

研究者

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫・教授 高橋 智（申請者）

国立歴史民俗博物館・准教授 小倉 慈司

京都大学人文科学研究所・教授 金 文京

慶應義塾大学文学部・教授 佐藤 道生

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫・教授 住吉 朋彦

国文学研究資料館・教授 陳 捷

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫・教授 堀川 貴司

東京大学東洋文化研究所東アジア第二部門・教授 大木 康

研究期間：平成26年4月1日～平成28年3月31日（2年間）

◆課題の概要

本研究は、平成24～25年度共同研究のテーマ「日本漢籍集散の文化史的研究－「図書寮文庫」を対象とする通時的蔵書研究の試み－」の継続研究として、宮内庁書陵部所蔵漢籍の伝来調査と各図書の書誌調査を一体化することによって伝統的蔵書文化の特徴を明瞭に把握しようとするものである。

既に、伝来単位である公家・大名・幕府・近世漢学者等に焦点を当てた分担調査が進行中であるが、伝来単位の蔵書構成を解明することは、漢籍文化がどのように我が国に浸透し発展してきたかを理解する有力な観点の一つであることが共同研究者の共通する認識となっている。最も歴史ある書陵部蔵書は、アジア諸国の皇室・宮廷蔵書文化と比較しうるものであって、ここに我が国固有の書物文化のエキスをみることができる。漢籍の刊・写、時代鑑定、唐本・韓本・和本の審定を基礎として、中世博士家・三条西家等公家・東福寺を始めとする古刹・日典や大通等の積家、更に金沢文庫・足利学校を中心とする学堂と、近世を遡る蔵書史と、徳川家康以来の駿河御譲本・楓山文庫・昌平坂学問所、毛利高標・市橋長昭・新見正路等の大名武家の蔵書史を有機的な流動史として捉え、更に漢籍伝来の歴史を見据え、中国・朝鮮・日本・越南の蔵書文化との連携・共有・差異を探る基礎知識庫の構築を目指すものである。

◆平成26年度の研究実施状況

宮内庁書陵部本の書誌調査を基本に、漢籍蔵書文化の概略を把握する調査方法として、書陵部に伝わる家別の伝本調査を行った。それぞれの家と担当（分担者）は次の通り。宮家・小倉、九條家・佐藤、秘閣・高橋、毛利・金、山内・陳、古賀・堀川、国分・大木。主な調査書と数量は以下の通り。三条西実隆写白氏文集等公家関係 12 点、明刊本を中心とした秘閣本 67 点、元刊本を中心とした毛利本 19 点、明刊本を中心とした国分本 6 点、清刊本を中心とした古賀本 17 点。それぞれ書誌ノートを作製し、特に旧蔵者の調査にも注意して、画像撮影との連動をはかっている。これらのデータの検討を行う研究会は、4月19日、5月29日、6月13日、7月25日（慶應大学で開催）、8月26日～28日（きらら鎌倉で開催）、10月3日、11月21日、12月11日、平成27年1月30日、2月21日（京都大学人文科学研究所で開催）、括弧内の記載以外はすべて東大東文研会議室にて開催。

◆平成26年度の研究成果の概要

個別の関連論文は、佐藤道生・『三河鳳来寺旧蔵曆応二年書写 和漢朗詠集 影印と研究』,490頁,勉誠出版,2014年、住吉朋彦・「九条家本『白氏文集』卷十六残簡」 書陵部紀要, 65, p.80-86, 2014、『方輿勝覧』版本考,斯道文庫論集,49, p 167 - 237,2014、小倉慈司・「東山御文庫本『字書目録』(勅封 164 - 74)」 国立歴史民俗博物館研究報告,183,pp.83-207.2015、宮内庁書陵部蔵壬生家旧蔵本目録(稿),禁裏・公家文庫研究,5, p 463 - 362,思文閣出版,2015、堀川貴司・「漢籍から見る日本の古典籍一版本を中心に」 調査研究報告,第 34 号,p.13-23,2014、種徳堂本『春秋経伝集解』について,高田時雄教授退職記念東方学研究論集,p143 - 152,臨川書店,2014、などであり、他に研究会参加者若手メンバーによる成果論文も多数報告されている。口頭報告として、大木康、住吉朋彦が 8 月 24 日ソウル大学校奎章閣にて開催された第七回ソウル国立大学校奎章閣国際シンポジウム東アジアの出版文化：知識の形成および流通」に於いて、デジタルアーカイブ「宮内庁書陵部収蔵漢籍集覧」の紹介を行った。画像データベース作製の一環として、書陵部蔵・「大般若波羅蜜多經」600 卷 唐玄奘訳宋趙安国版(磧砂版) 西大寺旧蔵 579 帖(510-1)の一部のデジタル画像化をはかった。書陵部所蔵漢籍旧蔵者データベースは、金沢文庫など代表的な箇所 30 所ほどを選び、順次その解説、蔵印画像を組み込んで、東アジアの蔵書伝流研究の基盤とする。

課題 3： 広島大学文学部旧蔵漢籍目録作成のための研究

研究者

宇部工業高等専門学校・准教授 赤迫 照子（申請者）
広島大学・名誉教授 野間 文史
広島大学大学院文学研究科・教授 富永 一登
東京大学東洋文化研究所東アジア第二部門・教授 大木 康

研究期間：平成26年4月1日～平成28年3月31日（2年間）

◆課題の概要

広島大学文学部旧蔵漢籍（現在は大半を広島大学図書館に移管）は、原爆による被災や、昭和から平成にかけて四十年近く費やされたキャンパスの統合移転の他様々な事情によって、長年、整理が滞っていた。申請者は2007～2009年度（平成19～21年度）に広島大学図書館研究開発室、2010年～2012年度（平成22～24年度）には広島大学大学院文学研究科に所属し、広島大学文学部旧蔵漢籍の調査及び目録作成に取り組んだ。広島大学文学部が蒐集した漢籍約4,000点の中には、明本を含む『文選』関係資料・『李卓吾先生批評西遊記一百回繪圖』をはじめとした善本が存する。国内外の研究者の閲覧に供するためには迅速に残りの調査を完了させて、漢籍目録を刊行しなければならない。

この広島大学文学部旧蔵漢籍目録の刊行は、広島大学所蔵資料への評価のみならず、申請者が受講した東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター主催漢籍整理長期研修への再評価にもなる。広島大学文学部旧蔵漢籍目録刊行は、漢籍整理長期研修後、受講者が所属の図書館で漢籍整理を実現するためのモデルケースとして他機関に示すことが可能である。そこで東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センターと共同で、広島大学文学部旧蔵漢籍目録刊行を漢籍整理の普及の促進を図るためのモデルケースとして構築し、国内諸機関、特に地方大学における漢籍整理事業のあるべき方向性を提唱する。

◆平成26年度の研究実施状況

①平成27年度の出版に向けて、広島大学文学部旧蔵漢籍目録の原稿を完成させた。未調査である漢籍の目録作成を全て終了させて排列に取り組み、四部分類による排架作業を完了させた。

②研究会にて目録情報の検討や出版の方向性を定めた。

③漢籍目録の紹介・目録作成の具体的な方法・地方における漢籍整理の必要性について、口頭報告・論文発表を行った。また、公開講座でも言及した。

④野間教授・磯部彰東北大学教授と共に、広島市立図書館所蔵浅野文庫漢籍の調査・目録作成に取り組んだ。この成果は冊子目録として平成27年度に出版予定である。なお、浅野文庫漢籍と、広島大学文学部の前身校である広島高等師範学校との繋がりが確認された。

◆平成26年度の研究成果の概要

赤迫照子 論文：「広島大学所蔵漢籍目録作成への過程」（『図書館学』105号 西日本図書館学会 pp.47-54 平成26年9月）口頭報告：「広島大学所蔵漢籍目録作成への過程—目録の仕事を継承していくために—」（平成26年度西日本図書館学会春季研究発表会総会 於サンメッセ鳥栖（佐賀県鳥栖市）平成26年6月28日（土））

公開講座：「くずし字で読む古典」（宇部高専市民文化サロン 第1回 10月18日（土）10:00～11:30、第2回 11月29日（土）10:00～11:30）

その他：広島市立図書館所蔵浅野文庫漢籍の調査・目録作成（8月～）

課題4： 関野貞・竹島卓一による中国史跡調査写真に関する史料学的研究

研究者

国立文化財機構東京国立博物館学芸研究部・調査研究課長 田良島 哲（申請者）

東京大学東洋文化研究所東アジア第一研究部門・教授 平勢 隆郎

研究期間：平成26年4月1日～平成27年3月31日（1年間）

◆課題の概要

1930年代前半に、東方文化学院による中国大陸の文物調査が関野貞とその助手竹島卓一らによって行われた。東京国立博物館（以下「東博」）では、2012年度に竹島の遺族から、竹島が保管整理していた当該調査の焼付写真約4400枚の寄贈を受けたことから、平成25年度に東洋文化研究所との共同研究の採択を受けて、東洋文化研究所が所蔵する同調査の写真と東博へ寄贈された写真との照合を行い、その全貌についての把握を進めてきた。

その結果、両者の間で重複する写真が多くある一方で、竹島が独自に撮影・保管していた写真もかなりの数含まれており、これらの写真は関野・竹島等による調査の詳細を研究する上で、貴重な資料となることを見込まれることが明らかとなった。調査成果の一部については、関野貞プロジェクト国際会議「龍門石窟と関野貞」（平成25年8月27日、法政大学）で報告され、また平勢隆郎「関野貞大陸調査と古写真」（『明日の東洋学』no.30、2013年10月）においても言及されている。

今回は、上記において明らかにされた情報をも加えて、竹島写真作成の経緯について可能な限り新情報を付与したい。東文研・「東博」以外の資料にも手を広げて検討することを考慮し、あらためて1年間の申請をお願いすることにした。

◆平成26年度の研究実施状況

特任研究員 三輪紫都香が東京国立博物館所蔵の竹島旧蔵焼付写真と東洋文化研究所所蔵の原板及び焼付写真を照合し、両者の関係を確認し上で、東博所蔵の写真の撮影時期、撮影場所、名称などについて考証、判定した。東文研における原板の有無についても確認を行った。また各焼付写真については、東博側でデジタル撮影を進め、資料としての活用に備えた。

◆平成26年度の研究成果の概要

東博、東文研両機関が所蔵する写真の歴史的関係の確認作業を元に、東博所蔵写真の基本的なメタデータの作成を完了し、平成25年度の研究と併せて、竹島の撮影、整理になる中国史跡写真のすべてについて、学術的な基本情報を整備することができた。各写真の形態や技法についても、東博研究員の協力を得て、新知見を得ることができた。

成果については、『東洋学研究情報センター叢刊 東京国立博物館所蔵 竹島卓一旧蔵「中国史跡写真」目録』（2015年3月）として刊行した。（人間文化研究機構「日本関連在外資料の調査研究・近代日本文化財保護政策関係在外資料の調査と研究」の成果を含む）

課題5：政治的リスクと人の移動：中国大国化をめぐる国際共同研究

研究者

慶應義塾大学総合政策学部・准教授 加茂 具樹（申請者）
中央研究院社会学研究所・特聘研究員 所長 蕭 新煌
中央研究院社会学研究所・副研究員 陳 志柔
中央研究院社会学研究所・副研究員 吳 介民
翰林大学校社会科学大学社会学科・教授 朴 濬植
ゲッティンゲン大学人的資源管理・アジアビジネス講座・教授 Fabian J. Froese
東京大学東洋文化研究所新世代アジア研究／東洋学研究情報センター・教授 園田 茂人
東京大学東洋文化研究所新世代アジア研究部門・准教授 李 賢鮮

研究期間：平成25年4月1日～平成27年3月31日（2年間）

◆課題の概要

地政学的変化は、社会科学の再編成を惹起する。冷戦体制のもとで近代化研究が進み、日本の高度成長によって日本研究から多くの魅力的概念が提示されたように、中国の大国化はさまざまな社会科学的な研究テーマを生み出し、新たな秩序形成の過程で新たな概念や分析枠組み、理論が作られつつある。中国モデルや北京コンセンサス論などは、その代表的なケースだが、政経分離を前提に日本や台湾との交流強化をめざす中国の姿は、新しい研究課題群を生み出しつつある。

台湾では「台商研究」と呼ばれる研究群が生まれ、中国大陸に渡った台湾人に関する総合的な研究がなされつつある。日本でも、ビジネスや留学、観光を通じた人的交流が盛んになっていることをベースにした研究群が生まれているが、その際、必ずしも比較研究が十全に行われているわけではない。1990年代以降、中国への投資を加速化させている韓国や、アジアから少し距離を置いているドイツなどとの比較は、中国台頭のチャンスとリスクをどう見積もり、経済的にどのような関係を構築しようとしているかを考える、きわめて魅力的な研究テーマとなっている。

東洋文化研究所は、中央研究院社会学研究所と4年にわたる研究交流を続けてきたが、従来の共同ワークショップの共催から、より焦点をもった共同研究へとシフトし、中国との人的移動をめぐる国

際共同研究を本格始動させたい。その成果は、所内でのワークショップや国際学会などで紹介されることになる。

◆平成26年度の研究実施状況

昨年度3月に実施した濟州島ワークショップでの議論を踏まえ、共同研究者がそれぞれに、みずからの論文のブラッシュアップを図った。その成果は、まず2014年6月1日のアジア政経学会全国大会・国際セッション”How East Asian Businessmen Have Perceived Political Risk in China?: A Comparative View?”で開陳され、朴濬植と陳志柔、園田茂人がそれぞれ報告を行い、蕭新煌が総括コメントを付け、フロアからもコメントや質問を受け付けた。この成果は、後日、アジア政経学会の学会誌『アジア研究』に収録されることになっている。また、濟州島ワークショップで議論された本の出版計画の実現のために、上記4名以外に、日本の対中投資の最近の傾向を分析した論文（岸保行）と韓国の中小企業の動向を扱った論文（Kim Yuntae）、対中投資による台湾政治へのブーメラン現象を扱った論文（呉介民）が、2014年12月22日に、台湾・中央研究院社会学研究所で実施されたワークショップで報告された。現在、すべての執筆者がリライトしている最中である。

◆平成26年度の研究成果の概要

昨年度の知見に加えて、(1)同じ国の企業でも、企業規模によって地方政府との交渉能力には大きな違いがあり、中国進出に積極的な韓国系企業でも、中小企業の中に対中進出がうまくいかずにUターンするケースも少なくない、(2)日本企業の場合、進出時期によって感じられる中国の政治リスクが異なっており、この点で、対中進出の歴史が比較的短い韓国や台湾とは一線を画している、(3)韓国企業や台湾企業の多くは中国政府と交渉し、中国社会を変えていこうというドライブが弱く、あくまで進出先に適応しようとする力が強く働くが、日本企業の場合、少なくとも組織内で「中国人の再創造」を行うとする力が働き、これを梃子に中国政府と交渉しようとする傾向にある、といった諸点が明らかになった。これらの成果については、アジア政経学会の国際セッションで報告され、その後、報告者が論文化することで、同学会の学会誌『アジア研究』で特集号が組まれることになった。

以下、各プロジェクトの活動状況等をまとめた

1. 共同利用・共同研究活動の状況

(1) 共同研究のための研究会、シンポジウム等の実施状況

開催期間	形態(区分)	対象	研究会等名称	概要	参加人数
H26.4.19ほか 12回開催	研究会	国内	書誌データ検討会	書陵部漢籍書誌調査の報告 検討	延べ68名
H26.9.8～12	研究会	国内	広島大学文学部旧蔵漢 籍目録作成検討会	広島大学文学部所蔵漢籍の目 録及び排列の分析と検討	延べ30名
H27.2.18～20	研究会	国内	広島大学文学部旧蔵漢 籍目録作成検討会	広島大学文学部所蔵漢籍の目録及 び排列の分析と検討、出版する目 録全体の方向性や出版・公開方法 の検討	延べ16名
H26.7.28	ワークショップ	国内	研究会「中世寺院にお ける宋代仏教文化受容 の統合的研究」	泉涌寺で開催し、研究報告お よび質疑応答	17名
H26.6.1	シンポジウム	国際	アジア政経学会全国大 会・国際セッション”How East Asian Businessmen Have Perceived Political Risk in China?: A Comparative View?(於 慶応大学湘南藤沢キャン パス)	アジア政経学会の国際セッ ションとして企画された。3名が 報告し、1名がコメントをした。 成果は同学会の『アジア研 究』に収録された。	14名
H26.12.22	シンポジウム	国際	中央研究院社会学研究 所・東洋文化研究所共 同主催国際学術シンポ ジウムPolitical Risks and Foreign Business in China: Japan, Taiwan and South Korea in Comparison	台湾の中央研究院社会学研 究所で実施。台湾からの3名 以外に、日本から3名、韓国か ら2名、合計8名が報告に参加 した。台湾から2名の討論者が 特別に参加し、論文のブラッ シュアップに貢献している http://www.ios.sinica.edu.tw/ ios/?msgNo=20150112-1	42名
H27.3.15	センターシンポジウム	国内	シンポジウム「中世寺 院における宋代仏教文 化受容の統合的研究」	東京大学内で開催し、3名の 研究成果報告と質疑応答	30名

(2) 上記(1)の研究会、シンポジウム等の参加状況

区分	平成26年度								
	機関数	受入人数				延べ人数			
			外国人	若手研究者 (35歳以下)	大学院生		外国人	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
東京大学内	6	14	1	1	5	23	1	5	5
		1	1	0	5	1	1	0	5
国立大学	9	15	2	2	6	51	3	3	32
		3	1	1	2	11	1	2	10
公立	2	2	0	0	0	2	0	0	0
		1	0	0	0	1	0	0	0
私立	12	24	1	2	5	60	1	3	20
		6	0	1	1	17	0	3	4
大学共同利用機関法人	3	5	2	0	1	5	0	0	2
		2	2	0	0	2	0	0	2
独立行政法人等公的研究機関	11	18	0	4	0	30	0	4	0
		9	0	1	0	18	0	1	0
民間機関	1	1	0	0	0	2	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0
外国機関	24	39	39	6	6	44	44	6	6
		10	10	2	2	10	10	2	2
その他	0	2	0	0	0	2	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0
計	68	120	45	15	23	219	49	21	65
		(32)	(14)	(5)	(10)	(60)	(12)	(8)	(23)

(3) 共同利用・共同研究に供する施設・設備及び資料等の利用状況等

○データベースの作成・活用・利用・公開状況

	データベース名	蓄積情報の概要	公開方法	蓄積量／利用・提供状況	
1	宮内庁書陵部收藏 漢籍集覧・書陵部 所蔵漢籍旧蔵者デ ータベース	漢籍の画像データと書誌デー タ、並びに漢籍旧蔵者の解説	公開準備	蓄積量	画像1万7千齣他
				利用(アクセス) 件数	

(4) 独創的・先端的な学術研究を推進する特色ある共同研究活動

- ・美術史、歴史学、仏教学でそれぞれに蓄積された「宋代仏教」に関する学術成果を、それらの事象を集積した「寺院」という〈場〉から統合的に捉え直すことを目的としている。こうした視座のもとで、研究領域を異にする専門家を一堂に会した研究会・シンポジウムの開催、さらには調査を推進することで、各分野で定説化する事象に対し、再解釈、新視点の提示を可能にした。【課題1】
- ・東アジアを代表する漢文資料宝庫・宮内庁図書寮文庫の蔵書源流を調査し、旧蔵者の特徴・意義などを一般の方々にも分かりやすく理解できる知識庫作製の取り組みによる漢籍文化の再評価を目指

す。【課題2】

・中国の政治リスクを東アジアの近隣地域のビジネスマンがどう認識してきたかという問いは、今までの研究からはアプローチされてこなかった、まったく新しい視点である。また、韓国や日本、台湾を比較の視点から捉える点でもユニークで、各国を代表する研究者が一同に会しての研究体制は、本拠点ならではのものである。【課題5】

(5) 国公私を通じた研究者の参加を促進するための取組状況

・国立・私立大学、国立・公立博物館、民間研究機関所属の研究者で構成されているが、研究推進上、構成員がもつさらなる人的ネットワークにより、作品の公的所蔵機関（大学・博物館）、諸寺院、個人などとの多彩な交流をもつに至った。こうしたネットワークの構築と連動して、公開研究会を開催し、関心を持つ専門家との交流もはかる機会を設けている。【課題1】

・研究会の開催は、研究者全般に開かれており希望者には随時参加願っている。早稲田大学・慶應大学等から研究者・大学院生が参加し、特に若手研究者の参加により、古典籍調査の経験を積んでいる。

【課題2】

・平勢隆郎・塩沢裕仁『関野貞大陸調査と現在Ⅱ』（東洋文化研究所、2014年）の刊行。ここに収めた諸論考は、前年開催のシンポジウム『龍門石窟と関野貞』において発表されたものを含む。このシンポジウムには、学内外の諸研究者（大学院生を含む）が多数参加した。また、平勢隆郎・塩沢裕仁・関紀子・野久保雅嗣編『東方文化学院旧蔵建築写真目録』（東京大学東洋文化研究書不賤東洋学研究情報センター叢刊17、2014年）、田良島哲・平勢隆郎・三輪紫都香編『東京国立博物館所蔵竹島卓一旧蔵「中国史跡写真」目録』（同前センター叢刊18、2015年）を刊行。【課題4】

・日本における社会科学系のアジア研究の最大学会であるアジア政経学会で研究成果を報告し、多くの会員からフィードバックを受けるばかりか、その学会誌に論文が掲載される点で、研究者の「参加」というより、研究者への新しい研究の方向性を示唆したものといえる。【課題5】

(6) 共同利用・共同研究を通じた特色ある人材育成の取組

・本研究は、美術品・聖教・歴史資料などの「モノ」を基礎資料とするため、調査を重視する。それぞれの分野での調査方法は大きく異なるが、それらを同時に行うことで、他分野の調査方法の理解、習得することを推進するものとする。こうした調査には、関心を持つ若手研究者や大学院生に積極的に参加してもらい、学際的研究に対応できる人材の育成を目指している。【課題1】

・海外の研究者を受け入れ、日本の東アジアに於ける漢籍受容、漢字文化の受容発展を理解していただき、海外でその現状を紹介していただけるような漢籍研究のグローバル化に貢献していくことを念頭に、本年は、研究会に、プリンストン大学のブライアン・スタイニンガー氏（慶應大学訪問教授）を招いている。【課題2】

・広島大学大学院文学研究科の大学院生を目録確認調査・四部分類排架作業のアルバイトとして雇った。大学院生は漢籍の取扱いに関する技術を習得し、また、漢籍目録の公開方法、全国の諸機関における漢籍整理の現状を学習した。また、地域の漢籍整理を進める必要性についても具体的に理解することができた。【課題3】

・シンポジウム『龍門石窟と関野貞』に大学院生が多数参加【課題4】

・2つの国際シンポジウムを通じて、こうした形で国際共同研究が進められるというモデルを提示

するとともに、同じテーマを複数の国籍の研究者が共同して研究を進めるモデルを提示することができた。【課題5】

(7) 関連分野発展への取組 (大型プロジェクトの発案・運営、ネットワークの構築 等)

- ・すでに共同研究者の大塚「日本中世前期における版本文化の基礎的研究」(日本学術振興会科学研究費補助金、若手研究B)と連動した調査を行っており、調査成果を踏まえた展示を博物館施設等で予定している。また、共同研究者のネットワークにより、博物館・寺院・個人などの多様なネットワーク構築に成功しており、さらなる研究視座からの「宋代仏教」の見直しを図る研究プロジェクトへの展開が期待できる。【課題1】

- ・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究A)による「宮内庁書陵部收藏漢籍の伝来に関する再検討ーデジタルアーカイブの構築を目指してー」(代表・住吉朋彦)による漢籍画像・書誌データの公開に伴い本研究の核である旧蔵者データベースもその公開運営に連動して知識庫を共有することができる。【課題2】

- ・広島市立図書館所蔵浅野文庫漢籍の調査・目録作成・冊子目録出版を行った。旧冊子目録の斯波六郎・田中巖編『広島市立浅野図書館和漢圖書目録』(昭和二十六年)は広く利用されておらず、専門の研究者にも所蔵状況が知られていなかったが、目録が整備されたことによって、共同利用が可能になった。また、広島大学文学部所蔵漢籍とあわせて、広島県域全体における漢籍目録の整備を大幅に進展させることができた。【課題3】

- ・東京国立博物館において、特集展示「中国史跡写真」(平成28年1月から3月)開催の予定。
【課題4】

- ・オーストラリアのシドニー大学で、本プロジェクトに示唆された研究グループが、「オーストラリア企業の対中進出と地方政府の交渉」をテーマに研究を進めつつある。そのプロジェクトをリードする Chen Minglu 人文社会科学学部・講師が、2015年11月に本研究所の訪問研究員となる予定となっており、本格的な共同研究が進むものと期待されている。【課題5】

2. 共同利用・共同研究による研究成果

(1) 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数(参加研究者がファーストオーサーであるものを対象)

区分	平成26年度	
論文数	30	
うち国際学術誌に掲載された論文数	(24)	4(2)

※下段の()内には、東文研以外の研究者による成果(内数)を記載。

(注) 分野の特性を踏まえて、参加研究者がファーストオーサーである場合の他に、コレスポンディングオーサーである場合や指導した大学院生がファーストオーサーになっている場合など、論文における重要な役割を果たした実績を示す必要がある場合は、その役割を明示の上で以下に記入。

役割	研究会の主催・研究会名による論文原稿の作成・校正	
区分	平成 26 年度	
論文数		
うち国際学術誌に掲載された論文数	3 (3)	0 (0)

※下段の () 内には、東文研以外の研究者による成果 (内数) を記載。

(注) 高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された場合、その雑誌名、掲載論文数、そのうち主なもの※ 東文研以外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

掲載雑誌名	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
故宮文物月刊	1	五山版の意義—以楊氏親海堂蔵書為例	<u>住吉朋彦</u>
国立歴史民俗博物館研究報告	1	東山御文庫本『字書目録』(勅封 164 - 74)	<u>小倉慈司</u>
国語と国文学	1	官版集部について	<u>堀川貴司</u>
アジア研究	5	Chronology of 30 Years of Japanese Multinationals in China	園田茂人

(注) インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合は、以下にインパクトファクター以外に顕著な業績と判断できる適切な指標とその理由を記載の上で、掲載雑誌名等を記載。

※東文研以外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

インパクトファクター以外の指標とその理由		<ul style="list-style-type: none"> ・文学・文献学専門の雑誌として一定の評価を得ている ・共同研究課題の研究成果を広く一般に公開するとともに電子データでも Web で公開している。 	
掲載雑誌名	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
斯道文庫論集	1	『方輿勝覧』版本考	<u>住吉朋彦</u>
駒澤大学仏教文学研究	1	五山文学における偈頌と詩	<u>堀川貴司</u>
明日の東洋学	1	関野貞大陸調査等にかかる竹島卓一旧蔵建築写真	<u>田良島 哲,</u> <u>関 紀子,</u> <u>三輪 紫都香</u>

(2) 共同利用・共同研究による特筆すべき研究成果（特許を含む）

・「宮内庁書陵部収蔵漢籍集覧」（画像・書誌データ）が公開される予定であるとともに、旧蔵者データベースが利用できれば、古典籍研究全般の共益となる【課題2】

・広島大学文学部所蔵漢籍の悉皆調査と目録作成が終了し、冊子目録の原稿が完成した。出版は東京大学東洋文化研究所から行う予定である。また、四部分類による排架も終了し、共同利用にむけての準備が整った。【課題3】

(3) 共同利用・共同研究活動が発展したプロジェクト等

プロジェクト名	主な財源	プロジェクト期間	プロジェクトの概要
宮内庁書陵部収蔵漢籍の伝来に関する再検討ーデジタルアーカイブの構築を目指してー	日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究A)	平成24年度～平成28年度	書陵部所蔵漢籍の画像データのオンライン化と書誌データの調査
広島市立図書館浅野文庫解題目録(漢籍)作成	広島市	平成26年度	広島市立図書館浅野文庫蔵漢籍の調査・目録作成・冊子目録出版

(4) 1-(1)以外の公開講座、公開講演会等の実施状況

シンポジウム・講演会		セミナー・公開講座	その他	合計件数	
件数	1	2		3	
開催期間	形態(区分)	対象	公開講座等名称	概要	参加人数
H26.10.18	公開講座	一般	宇部高専市民文化サロン「くずし字で読む古典」第1回	日本の古典籍・漢籍の基礎知識を紹介し、原典に触れるたのしみについて説明した。	20
H26.11.29	公開講座	一般	宇部高専市民文化サロン「くずし字で読む古典」第2回	日本の古典籍・漢籍の基礎知識を紹介し、原典に触れるたのしみについて説明した。	20
H26.10.20	講演会	一般	広島市立図書館・広島大学図書館連携事業 講演会「中国六朝時代の仏教美術と小説」	講演「古小説に見られる仏教説話の中国化」	60

※具体的な年次活動報告及び最終報告書はセンターHPで公開中 <http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

2) センター機関推進プロジェクト

研究情報の収集，資料整理やデータベースの構築とその公開に関わるプロジェクトを所内で募集し，実施している。

重点プロジェクト……センター予算によって重点的に実施するもの。

一般プロジェクト……センター予算外から予算措置を講じて実施するもの。

平成26年度センター機関推進プロジェクト一覧

	No.	分野	申請者	プロジェクト名
重点	1	文献	松田	中華圏現代史貴重史料の収集・整理
	2	造形	板倉	東アジア美術デジタル・アーカイブ・プロジェクト
	3	社会情報	園田	アジア学生調査統合データの作成と利用
	4	文献・ 社会情報	田中	日本政治・国際関係データベースプロジェクト
	5	文献・ 社会情報	張	中国における省別、企業別食糧貿易資料の収集と整理
一般	1	文献・ 造形・ 社会情報	真鍋	富山妙子画伯コレクションー第三世界と Narrative Artー
	2	社会情報	名和	日ネ協会旧蔵資料データベース整備

重点プロジェクト

1. 中華圏現代史貴重史料の収集・整理 / 松田 康博 [文献]

◆プロジェクトの趣旨、全体計画

本プロジェクトは、「台湾現代史貴重史料の収集・整理」（機関推進プロジェクト平成 22-24 年度）および「中華圏現代史貴重史料の収集・整理」（機関推進プロジェクト平成 25 年度）の後継プロジェクトである。これらは、中華圏の貴重資料収集をプロジェクトとして予算化し、より系統的・機動的な収集と整理を行うものである。申請者はこれまでも台湾のみならず香港や中国大陸の貴重史料を収集してきたが、台北に加え、他地域の古書店の史料供給源を開拓し、散逸してしまう前に現代史に関する貴重史料を収集することが目的である。

◆今年度の研究実施状況

科研費、個人研究費、会議参加（全額招待）による台湾、中国への出張機会などを利用して積極的に史料収集を進めた。所定の予算と部門基盤構築費を併せ、古書・档案・その他について、順次東文研図書室に納入している。東文研図書室に納入している貴重資料は、「現代台湾文庫」（平成 25 年度から公開。3 月 9 日現在、1427 件が登録済）および「現代中国文庫」（平成 27 年から公開。3 月 9 日現在、20 件が登録済）として公開されており、東文研のホームページでもその紹介を行っている。

◆今年度の研究成果の概要

東洋文化研究所に所蔵されている「現代台湾文庫」の資料的価値と可能性についてセミナーを開催した。まず岩谷将（防衛省防衛研究所戦史研究センター主任研究官）報告では、すでに図書室で閲覧が可能となっている国民党、国防部、法務部調査局からの流出史料の一部や一般古書について紹介がなされた。中国・台湾の古い書籍については時間がたつほど手に入りやすくなる現状からみれば、今後さらに価値があがるものと考えられる。檔案資料に関する清水麗（東京大学東洋文化研究所特任研究員）報告で、400 件を超える資料が整理され、2015 年 4 月以降順次閲覧可能となるとの状況説明がなされた。それらは 1950-70 年代を中心に、国防、外交、宣伝指導などの文書、伝単、行政院や中国国民党、宣伝指導小組、宣伝指導委員会、国家安全会議等の会議資料や文書による意見交換、メモが含まれ、多くは機密扱いとされるものである。

2. 東アジア美術デジタル・アーカイヴ・プロジェクト / 板倉 聖哲 [造形]

◆プロジェクトの趣旨、全体計画

これまで様々な形で継続的に行ってきた、東アジア地域における美術作品のデジタル・アーカイヴ・プロジェクトだが、『中国絵画総合図録 三編』刊行開始を契機として中国美術史学界においてその意義が再認識されるようになった。この刊行の準備が本プロジェクトの中心的な課題の一である。同時に、日本における東アジア絵画史関連の学術論文情報を提供することで（「東アジア絵画史研究文献目録」）、単に作品情報のみに止まらない、日本における研究の存在意義を示すものとなっている。

◆今年度の研究実施状況

まず『中国絵画総合図録 三編』第2巻 アメリカ・カナダ篇Ⅱが本年6月に出版された。引き続き第3巻出版のための準備作業を行っており、来年度夏の刊行予定である。この巻には、これまで未掲載の美術館が複数含まれており、今後の中国美術史研究に大きく寄与するものと確信する。これら書籍の元になったデータは様々な形で保管しているが、本年は、三井記念美術館で開催された「東山御物の美」展など、展覧会に利用されることで、一般にも成果を披露した形となった。

又、次年度の調査を実施するための予備調査を日本国内で行い、中国絵画コレクション、谷文晁関連資料の存在を確認した。さらに、2014年7月15日に開催した東洋学研究情報センターシンポジウム「東アジアにおける実景表現—比較の視点から」も本プロジェクトの一環だが、その報告集として『BI』8号を刊行した。

◆今年度の研究成果の概要

公開済みの（または予定の）具体的な成果物

刊行物 『BI』8号 2015年1月

刊行物 『中国絵画総合図録三編 第2巻 アメリカ・カナダ編Ⅱ』東京大学出版会

2014年6月

刊行物 『中国絵画総合図録第3巻 ヨーロッパ編』東京大学出版会

2015年夏頃刊行予定

3. アジア学生調査統合データの作成と利用 / 園田 茂人 [社会情報]

◆プロジェクトの趣旨、全体計画

昨年度の機関推進プロジェクトで、アジア学生調査第2波調査のデータベースを作成した。また、プロジェクトに参加した学生の関心に沿った形での報告会も実施し、一応の「けじめ」もつけた。しかし、データ収集のスケジュールが押し寄せとなってしまったので、最終的には統合データを作成するところまでは行き着かなかった。そこで、本プロジェクトで、第1波調査のデータベースとのマージを行い、統合データベースを作成するとともに、調査対象となった大学の教員・若手研究者と協力して、データベースをもとにした論文集の刊行を目指す。

本来、利用部分については公募プロジェクトで実施するのが望ましいのだが、アジア学生調査に関心をもつのが海外の研究者ばかりで、日本国内で責任をもってプロジェクトを管理してくれる研究者を探すのがむずかしかった。そのため、機関推進プロジェクトとして、データベースの整備とデータを利用した論文の作成を同時に行いたい。

◆今年度の研究実施状況

今年度の早い段階で、アジア学生調査の第一波、第二波調査の統合データを作成。プロジェクトチーム（人文社会系研究科と文学部、学際情報学府の授業を利用して学生を動員）でデータを利用した分析を進めるとともに、9月すぎに、後述の報告会に参加する高麗大学、北京大学、フィリピン大学の担当者に統合データを配布。若手研究者に同データを利用した論文執筆を依頼し

た。

日本語での成果は10本の論文を収録し、勁草書房から『比較社会研究のフロンティアⅢ 連携と離反の東アジア』をセンター叢刊第19緋として2015年3月末に刊行する予定となっている。また英語論文については、2015年2月26日に開催された報告会で11本の論文が提出され、内容が検討された。

データセットのウェブでの公開は、2015年になって急きょ、別予算からインドネシア、マレーシア、ミャンマーの学生調査を実施することになったため、ストップさせた状態になっている。

◆今年度の研究成果の概要

まず2014年7月17日に、中国社会科学院社会学研究所で、中国の学生調査を実施している研究チームを招聘し、同種の研究を行う際の留意点などについて、学生も含めて意見交換を行った(<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=SatJul190539492014>)。

また、統合データセットを利用した分析は順調に進み、2015年2月26日には、22名の参加者を集めて国際会議が実施された。学部生を中心に実施された調査が、同様に学部生を中心に、しかも英語を用いて成果報告がなされるのは、世界的に見ても「無謀な」試みであるが、上記の国際会議に出席した、高麗大学社会学科のKim Chul-kyoo教授からは“I was impressed with the high quality of the papers and discussion by the students”といった評価を得るなど、その成果は十分な水準に達しているといつてよい。

(<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=FriFeb271608312015>)

本プロジェクトを通じた具体的な成果は、論文集を参照いただきたいが、従来のアジア研究に欠如していた社会心理学的研究、とりわけアジア域内の離反と統合をめぐる基礎的な資料と知見が提示できた点に、大きな知的貢献があったといえる。

4. 日本政治・国際関係データベースプロジェクト / 田中 明彦 [社会情報]

◆プロジェクトの趣旨、全体計画

【プロジェクトの趣旨】

我が国の内政・外交ならびに国際関係にかかる重要な政治文書などをテキストデータ化して公開している「日本政治・国際関係データベース」に、未収録の文書をテキストデータ化し、同データベースをさらに拡充する。

データ作成においては、以下の4点に留意する。

① 我が国の内政・外交ならびに国際関係にかかる重要な政治文書などをできる限り網羅的にテキストデータ化し、HPで公開する。

② 戦前および戦後の文書で、テキスト化されていないもの、WebへのUPがされていないものを重視してHPに掲載する。

③ 直近の重要文書もできる限り作成する。

④ ④世界中のどんなWeb環境においてもアクセスしやすいよう、シンプルテキストでデータ化する。

【全体計画】

- ・平成26年度の予算：91万円
- ・210件 2.45MBの文書を入力しHPで公開。
(参考： 予算申請額 1,299,320円。 入力予定件数 300件 3.5MB)

◆今年度の研究実施状況

【作成及び公開ファイルの種類】

- ・戦後国際政治の基本文書（特に韓国語文書）
- ・戦前日本外交文書（特に1900年代初めの国際政治文書）
- ・国会外での首相演説
- ・国会外での外相演説
- ・日本の安全保障政策
- ・サミット関連文書
- ・G20資料集
- ・ASEAN関連文書
- ・多数国間条約

【データベース作成作業】

データ入力及び検証は、国際政治学の専門知識を持つ大学院生などが担当。週1回程度打合せを行い、問題点を検証しながら、重要度の高い文書を選択しながら作業をすすめた。

進捗状況管理、バイト生への入力指導、サーバへのUP作業、HTMLやCSSなどの対応、HP全般の管理、データや作成マニュアルの管理などは主に特任専門職員が担当。

アクセスログをもとに、利用数を計算し、のアクセスランキング公開している。直近のものだけでなく、約15年間の蓄積されたデータを元に総合ランキングも計算し公開している。

◆今年度の研究成果の概要

【入力件数】

今年度は、210件 2.45MB をデータベース化する予定であったが、

① 1900年代の対象文書が、送り仮名がカタカナのうえ、漢字に旧字が多いことから入力に時間がかかった。

② 韓国語文書を新たにHPへUPするための入力マニュアル作成や、変換システム構築などに時間を要した。

③ 長文の文書が多かった。

という理由により、件数は少なめであるが、容量は目標数値を超え、184件、2.86MBのデータを作成し、HPへUPした。

【利用者数】

今年度の利用者数は、以下の通り

HP 全体 1,673,026 件 文書のみ 1,485,797 件

1ヶ月あたりのHPへのアクセス数は、平均139,182件。

5. 中国における省別、企業別食糧貿易資料の収集と整理 / 張 [文献・社会情報]

◆プロジェクトの趣旨、全体計画

本プロジェクトは中国各省の地方誌（主に商業誌、糧食誌、経貿誌）及び国有企業（主に中糧集団、中紡集団と食糧主産地の各省の国有食糧企業）の企業誌を主たる材料とし、2000年代までの中国食糧貿易に関する資料の収集と整理を目的としている。

中国の食糧貿易の特徴は、①輸出と輸入の両方において規模が大きい、②年間数量の変動が大きい、の2点にまとめることができる。これまでの統計資料に基づいた学術研究は、主要作物別の数量から食糧貿易の趨勢を分析するものがほとんどである。食糧貿易の変動を説明するのに不可欠である国内の食糧流通構造や、貿易担い手である国有食糧貿易企業の役割に関する研究は、中国の国内外を問わず、空白に近い状態である。そこで、本プロジェクトは地方誌と企業誌に掲載している関連資料を整理し、資料集を公開することによって、食糧貿易の全貌をより明確にするための研究材料を日本及び海外の研究者に提供したい。

◆今年度の研究実施状況

平成26年度に科研費、他機関の共同研究プロジェクトによる中国本土及び香港への出張機会などを組み合わせて利用し、1949年以降の1) 省レベルの食糧生産状況、2) 主要食糧の貿易量、3) 省レベルの国内調達量（中国語「糧食調撥」）に関連する資料収集を進めた。具体的には、香港中文大学・中国研究サービスセンターにて省別糧食誌に記載している内容の収集、さらに上海と北京より『全国分県食糧産、購、銷と分配状況資料』、『中国農業年鑑』などの資料を入手した。年度の後半は、当初の計画に基づき、アシスタントを1名雇用し、関連資料の整理と分析を開始した。省別の食糧生産・流通・貿易に関連するデータは原典によってバラツキが大きいという問題が当初の予想より深刻であることが資料整理の過程において判明した。現在、担当者とアシスタントの2人体制で、資料を整理しながら、一貫性と信憑性がより高いデータの選別と入力を進めている。

◆今年度の研究成果の概要

2014年度末時点で、省別食糧生産量と調達量関連の図表約50枚を作成しており、英文データ資料集China's Grain Distribution (仮)を完成・公開するための作業準備も進めている。また、これまでに収集・整理したデータを材料に一定の研究成果を上げることができた。これらの研究成果に基づき、2015年2月5日に東文研ASNETセミナーにて「中国フードレジーム——1950-70年代南糧北調の再考」と題する口頭報告と、3月17日に中国西南财经大学・光華講座にて「中国食糧需給構造の変化と地域経済の発展」と題する講演を行った。

一般プロジェクト

1. 富山妙子画伯コレクション—第三世界と Narrative Art—／真鍋祐子[文献・造形・社会情報]

◆プロジェクトの趣旨、全体計画

申請者は1921年生まれの画家・富山妙子氏より所蔵資料の寄贈を受け、その整理と一般公開の為のデータベース構築を目的として、本プロジェクトを申請するものである。

炭鉱・韓国民主化闘争・慰安婦等を題材とした作品群が、主に70年代以降、トランスナショナルなネットワーク（キリスト教、アムネスティ等）を通じて欧米経由で国際的な人権運動に与し、非合法的に東南アジアやアフリカ諸国に流出したことで当該国の民主化を促す等の narrative art の役割をはたした点に焦点をあてる。氏の作品がカラージュされた各国の装丁本、冊子、ポスター、チラシの他、インタビュー記事、作品の伝播に伴い生じた各国知識人との交流に関わる手紙等の一次資料、取材旅行で撮影された写真等（60年代の中南米、オリエントを含む）の民族誌資料、制作のベースをなす文献等を取り扱うことで、第三世界におけるアートを通じた民主化プロセスを解明する。

◆今年度の研究実施状況

韓国民主化運動と日韓連帯（在日朝鮮人による運動を含む）にかかわる富山妙子氏所蔵資料の整理を行った。書籍、手紙、写真、CD、レコード、パンフレット、チラシなど、すべての史資料について文献リストを作成し、項目別に分類し、まとめる作業を行なった。その際、公刊された書籍を除く一次資料については、データベース構築に向けてすべてを写真データに収めつつ整理した。

加えて富山氏宅にて数次にわたり、資料の分類と公開方法をどうするかについてミーティングを重ねながら、きたるべき資料公開に向けて、資料ごとに貼るタイトルラベルを作成し、貼っていく作業を続けて行なった。

また次年度に扱う予定の世界的な美術運動にかかわる資料についても、富山氏宅にて、手紙などを中心とした一次資料の整理と分類に取り掛かることができた。

◆今年度の研究成果の概要

今年度は本プロジェクトの要となる韓国民主化運動関連の資料を扱った。年度末時点での寄贈資料は、富山氏著作22点、装丁25点、雑誌執筆等8点、および所蔵図書が約460点に上った。言語は日本語の他、朝鮮語、英語、ドイツ語などで、そこから韓国民主化運動に対するトランスナショナルな連帯運動の広がりを見出すことができる。さらに資料の内容を精査しつつ、特に所蔵図書については富山氏の創作活動を動機付ける思考の輪郭をなすものにとらえ、テーマ別の分類を行なった。その結果、韓国民主化運動を主題とした氏の創作においては、「アジア」「戦後思想」「フェミニズム」「第三世界」という大まかな枠組みが抽出された。同時に、これらの図書や資料の所蔵状況を東京大学OPACで検索した結果、単行本を除いてはいずれも稀少な一次資料に該当することが明らかになった。ただし手紙類等の整理と分類は次年度に持ち越さざるを得なかったため、今年度の研究成果はいまだ十分といえない。データベースについてはまだ作成以前の段階で資料の分類と写真データ作成という段階である。

2. 日ネ協会旧蔵資料データベース整備 / 名和 克郎

[文献]

◆プロジェクトの趣旨、全体計画

社団法人日本ネパール協会の旧蔵資料は、1950年代から70年代初頭に主にネパール国内で出版されたネパール語及び英語の多様な書籍・パンフレット等からなる、貴重なコレクションである。本プロジェクトは、同資料についての基本的なデータベースを作成することを目的とした一昨年度までのプロジェクト「日ネ協会旧蔵資料データベース構築」、および昨年度のプロジェクト「日ネ協会旧蔵資料データベース拡充」を受け継ぎ、データベース暫定公開に向けた詰め作業を行うものである。

◆今年度の研究実施状況

当初の計画通り、日本ネパール協会旧蔵資料の整理とスキャンの作業を進めた。本年度は予算の制約もあり、申請者自身が時間を見つけて作業を行った他、1名のアルバイトを個人研究費により雇用し、作業を進めた。平行して、これまでスキャンしてきたデータの整理・確認を行い、その過程で問題点が発見された画像については新たにスキャンを行った。本年度の成果を基に、平成27年度の機関推進プロジェクト（重点）「日ネ協会旧蔵資料データベース最終調整」により、整理に一定の区切りを付ける計画である。

◆今年度の研究成果の概要

本プロジェクトの成果を部分的に利用した共同研究として、申請者を代表とする国立民族学博物館共同研究「ネパールにおける「包摂」をめぐる言説と社会動態に関する比較民族誌的研究」及び科学研究費（基盤B）「体制転換期ネパールにおける「包摂」を巡る社会動態の展開に関する比較民族誌的研究」があるが、研究成果の出版は平成28年度前半になる見通しである。この他申請者は本プロジェクトの成果を用いた論文、資料紹介等を執筆しており、平成27年度中に英語、日本語双方で複数の論文が刊行される見通しである。

5. 研究成果の公開・発信事業

1) センターホームページの更新・運営

その時々イベントや成果について、逐次センターのホームページで紹介した (<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp>)。

2) 出版

ニューズレター『明日の東洋学』第32・33号を刊行した。国公立大学、関連学会・機関へ送付した。全てのバックナンバーはPDFファイルとしてホームページ上 (<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/pub/newsletter.html>) で公開している。

○第32号（平成26年10月）

「共同利用・共同研究拠点 共同研究課題の成果特集 第2号」

- ・ 関野貞大陸調査等にかかる竹島卓一旧蔵建築写真

田良島 哲, 関 紀子, 三輪 紫都香

- ・ 蔵書研究としてのデータベース構築

—デジタルアーカイブ「宮内庁書陵部収蔵漢籍集覧」の射程— 住吉 朋彦

- ・ 旧・満洲で撮影されたチベット仏教美術に関する画像データベース 森 雅秀

○第33号(平成27年3月)

「社団法人日本ネパール協会旧蔵資料特集」

- ・ ネパール村落調査と文献資料—探したものの、利用できなかったもの 石井 溥

- ・ 20世紀中葉のネパールの変容を読む

—社団法人日本ネパール協会旧蔵資料から 名和 克郎

東洋学研究情報センター叢刊は第18輯『東京国立博物館所蔵 竹島卓一旧蔵「中国史跡写真」目録』(田良島 哲・平勢隆郎・三輪紫都香 編)、第19輯『連携と離反の東アジア アジア比較社会研究のフロンティアⅢ』(園田 茂人編)の2冊を刊行し、関連機関への配布を行った。

3) アジア研究情報 Gateway

日本国内におけるアジア研究の動向として、若手アジア研究者の研究情報を平成15年度からセンターホームページ上で紹介している。「論集～アジア学の最前線」において若手研究者への投稿を呼びかけており、各種の研究エッセイを掲載、若手アジア研究者の研究情報や意見の交換の場を目指している。その他、アジア各国の書店・図書館情報なども情報提供している。

平成26年度は以下の情報を掲載した。

<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/asj/index.html>

- ・ 『京報』と外国人—1870年代の中国飢饉の情報伝播を中心として 趙 瑩
- ・ 文明の比較から境界の学へ—13世紀北西イランにおける数学・天文学テキストから「他者理解」に迫る— 諫早 庸一
- ・ 忘れたはずの記憶：新出資料「イギリス帝国の遺産作戦」関連文書群 佐藤 尚平
- ・ 東西思想の邂逅—18世紀在華イエズス会士の報告を中心に 新居 洋子

4) 東洋学研究情報センターセミナー・シンポジウムの開催

対外発信の強化のため、機関推進・公募研究プロジェクトなどの成果公開のための東洋学研究情報センターセミナーと称する公開セミナーの開催を平成25年度に開始した。

【東洋学研究情報センターシンポジウム】

2014.07.17“The Rise of Younger Generation in Contemporary China: Challenges and Prospects”

2014.07.15 「東アジアにおける実景表現—比較の視点から」

2014.01.22 「東アジア絵画史の可能性—朝鮮王朝の絵画を起点として」

【東洋学研究情報センターセミナー】

2014.06.25 「映画から見る中東社会の変容研究会（『太陽の男たち』）」

2014.07.08 「映画から見る中東社会の変容研究会（『金曜日の午後に』）」

2014.11.12 「映画から見る中東社会の変容研究会（『酔っ払った馬の時間』）」

2014.12.08 「映画から見る中東社会の変容研究会（『明日になれば』）」

2015.02.11 「映画から見る中東社会の変容研究会（『ガーダー—パレスチナの詩』）」

2015.02.17 「東京大学東洋文化研究所『現代台湾文庫』—その資料的価値と可能性」

【その他】

○国立大学共同利用・共同研究拠点協議会主催 第36回知の拠点セミナー

「アラブ革命の時代」2014年9月19日（京都大学東京オフィス）

○東文研・センター共催 公開講座

2014年10月18日「アジアの眼」

6. 研修事業

1) 漢籍整理長期研修

平成26年6月9日～9月10日に実施し、10名が受講した。

平成26年度漢籍整理長期研修 日程・課目・講師

日 程	時 間	課 目		講 師	備 考
6月9日(月)	9:30～ 10:00	開講式 オリエンテーション		大 木 康 (東洋学研究情報センター 長)	
	10:00～ 17:00	漢籍版本目録概説	講義	大 木 康 (東洋学研究情報センター 長)	
6月10日 (火)	9:00～ 17:00	四部分類について	講義	井 波 陵 一 (京都大学教授)	
6月11日 (水)	9:00～ 17:00	漢籍整理実習(1)	実習	陳 捷 (国文学研究資料館教授)	
6月12日 (木)	9:00～ 17:00	漢籍整理実習(2)	実習	陳 捷 (国文学研究資料館教授)	
6月13日 (金)	9:00～ 17:00	朝鮮印刷文化について	講義	藤 本 幸 夫 (富山大学名誉教授)	
6月16日 (月) ～ 9月5日(金)		所属図書館所蔵漢籍整理 及び研究	自習		
9月8日(月)	9:00～ 17:00	東洋文庫について	講義	會 谷 佳 光 (東洋文庫図書部閲覧複写課 長)	東洋文庫見 学を含む
9月9日(火)	9:00～ 17:00	和刻本について	講義	長 澤 孝 三 (元国立公文書館内閣文庫 長)	
9月10日 (水)	9:00～ 17:00	漢籍データベースの利用と 構築	講義	安 岡 孝 一 (京都大学准教授)	

9月11日 (木)	9:00～ 17:00	漢籍補修法	講義	杉本 直行, 青池 香名子 (宮内庁書陵部)	
9月12日 (金)	9:00～ 16:30	漢籍整理実習(3)	実習	高 橋 智 (慶應義塾大学教授)	
	16:30～ 17:00	修了式		長 澤 榮 治 (東洋学研究情報センター副 センター長)	

平成26年度漢籍整理長期研修研修員所属先一覧

1. 東北大学附属図書館
2. 一橋大学附属図書館
3. 岡山大学附属図書館
4. 慶應義塾大学三田メディアセンター
5. 成城大学図書館
6. 文教大学越谷図書館
7. 富山市立図書館
8. 鳥取県立図書館
9. うるま市立図書館 (前期のみ)
10. 国立国会図書館

7. その他

- 1) 全国文献・情報センターの一員として四センター（京都大学人文科学研究所附属東アジア人文情報学研究センター・一橋大学経済研究所附属社会科学統計情報研究センター・神戸大学経済経営研究所附属企業資料総合センター）で引き続き連携をとっている。
- 2) 平成26年度国立大学共同利用・共同研究拠点協議会総会が、平成26年12月5日（金）東京都内で開催され本センターも参加した。文部科学省の研究環境基盤部会では共同利用・共同研究体制の強化に向けて、審議のまとめがすすめられていること、更に今期の共同利用・共同研究拠点の期末評価について、様々な意見交換がなされた。